

”種をまく人と、水をあげる人。”

こんにちは。レイエスの阪本です。

みなさんワールドカップ、楽しんでますか？私は改めてフットボールの熱さを各試合のゴールシーンから感じています。我々にとっては事業としても日本代表とスペイン代表の躍進は不可欠です。引き続き両代表を応援したいと思います。（魂はいつだってブラジルですが。）

Reyes FC 東急SレイエスFC



↑ スクールからU-15の出身で、

U-18一期生のOB横山さんがスクールコーチを始めました。TOPチームでもプレーしています。

昨年から地域の方とのつながりをきっかけに、「レイエスファーム」なる畑の運用を始めました。まさに「育てる」ことを体現するのが畑、土と世話に出来が左右されるのが作物です。我々のアイデンティティでもある育てること、成長へのこだわりを忘れないという意味合いもあります。またその畑を起点として、さらに地域との繋がりが新しい出会い、それぞれの価値が実を結びます。そしてきっとそれらの積み重ねが、文字通りクラブが地域に根ざすその「根」を深く大きくしていきます。全員がクラブを育てる存在なのです。

これを読んでくださっている皆さん。選手スタッフ含むOBの方々であれば皆さんの存在は紛れもなく実であり、花であります。パートナー企業の皆さんやクラブの活動を通して接点を持っていたいただいた方であれば、幹であり枝であり、共に新しい葉や花を育てさせていただいています。そしてそれらの過程の中で、クラブにまた新しい種をまき、水を与えてくれていることでしょう。

育てることの価値化には“時間”という肥料が不可欠です。

すぐに変化することは長続きしない、という概念はクラブ内でも共有されています。花や実がなるには時間がかかるものですし、今のうちにOBたちがクラブに帰ってきてくれるまでに20年を要しました。ただその肥料は確実なもので、これから時間とともにOBの皆さんのステージは変化していき、その中でまた新しい価値が広がっていく未来を想像しています。



花や実が帰ってきて新しい種をまいてくれるレイエスの価値は、クラブの活動領域の拡大と比例してさらなる多様性を持つていくことになります。

そしてその価値はクラブが存在している以上生み出され続けることになり、まさにレイエスを“永遠に育ち続ける”クラブへ到達させてくれることでしょう。

その過程で生じる繋がりと精神的な資産のことを我々は“ルーツ”と呼んでいます。



↑ 多くの子供たちが応援してくれる
社会人チームはレイエスだけ。

東急SレイエスFC代表 阪本 洋平